

重要拠点で自社近隣会館との相乗効果を狙った他社会館活用

(株)清月記 / 仙台七北田斎場 清月記 [仙台市泉区]・仙台中田斎場 清月記 [仙台市太白区]

(株)清月記（本社仙台市宮城野区、社長菅原裕典氏）は、創業地である泉区に第1号会館「仙台東斎場 清月記」をオープンしたのが1992年。その後2003年に「仙台中田斎場 清月記」を開設。泉区ではしばらくこの2館体制で展開していた。

そして13年10月、他社葬祭会館の運営を引継ぎ、リノベーションを施して開設したのが「仙台七北田斎場 清月記」だ。さらにその翌年、太白区に開設した「仙台中田斎場 清月記」も他社の葬祭会館を清月記流にリノベーションして再生した。

激戦地泉区で苦戦していた廃業会館をすぐに土地・建物所有者に直接交渉

地下鉄南北線泉中央駅から車で10分、東北自動車道泉ICから同5分の国道4号に面する七北田斎場の周辺には、日本三山寺の1つといわれる洞雲寺、1026年創建という二柱神社（現在地には1662年に遷宮）といった由緒ある社寺があり、旧泉市（1988年に仙台市に編入）時代には中心市街地として栄え、古くからの住民が多く住む地である。また、87年に開業していた仙台市地下鉄南北線が延伸、92年の泉中央駅開業も相まって、地価が高騰した。

七北田斎場は、地域の名士の所有地に建てられていた他社会館で、オープンは96年。前事業者は土地・建物を借りて運営していた。

この周辺には、互助会の葬祭会館が車で2分のところにあるほか、多数の葬祭会館が競合する激戦地である。こうしたことから、月間施行件数は2件程度に留まっており、開業後十数年を経たところで廃業となった。

その一報を耳にした菅原社長は、すぐに土地・建物の所有者のところに出向き、運営を譲り受けた旨を直談判。以前から菅原社長とこの土地・建物所有者とは面識があったこともあり、申し入れをすぐに快諾されたという。

競合もあって施行件数は伸び悩んでいたものの、国道沿いという本来は好立地であることから、菅原社長は「再生できる」と踏んでいたのだ。その後すぐに契約に漕ぎつけるのだが、他の葬祭事業者もその土地・建物所有者に譲渡を要請していたといい、タイミングを逸していたら他社の手に渡っていたかもしれないという。

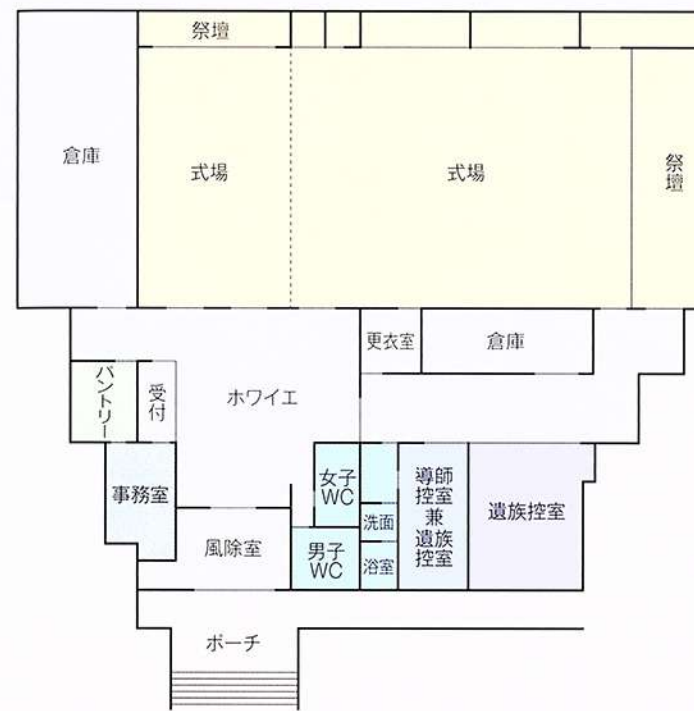
前事業者と同様、土地・建物を賃借しての運営となったが、96年オープンの葬祭会館であり、控室は和室であったほか、何より国道沿いであるにも関わらず、防音設備が貧弱であったことから、仮眠する遺族は落ち着いていられない状



国道沿いの好立地の会館を、外観塗装、車寄せの新設によりバリューアップされた「仙台七北田斎場 清月記」

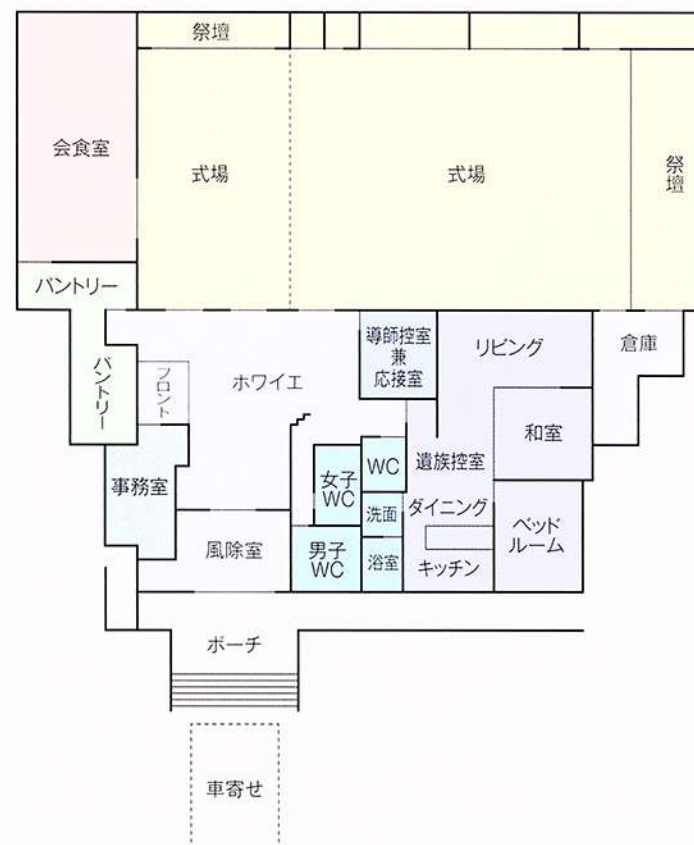
●仙台七北田斎場 清月記

Before



式場、控室ともいかに古いイメージ

After



重厚感ある荘厳な式場、くつろげる控室にリノベーション